

第4章 情報を発信・共有

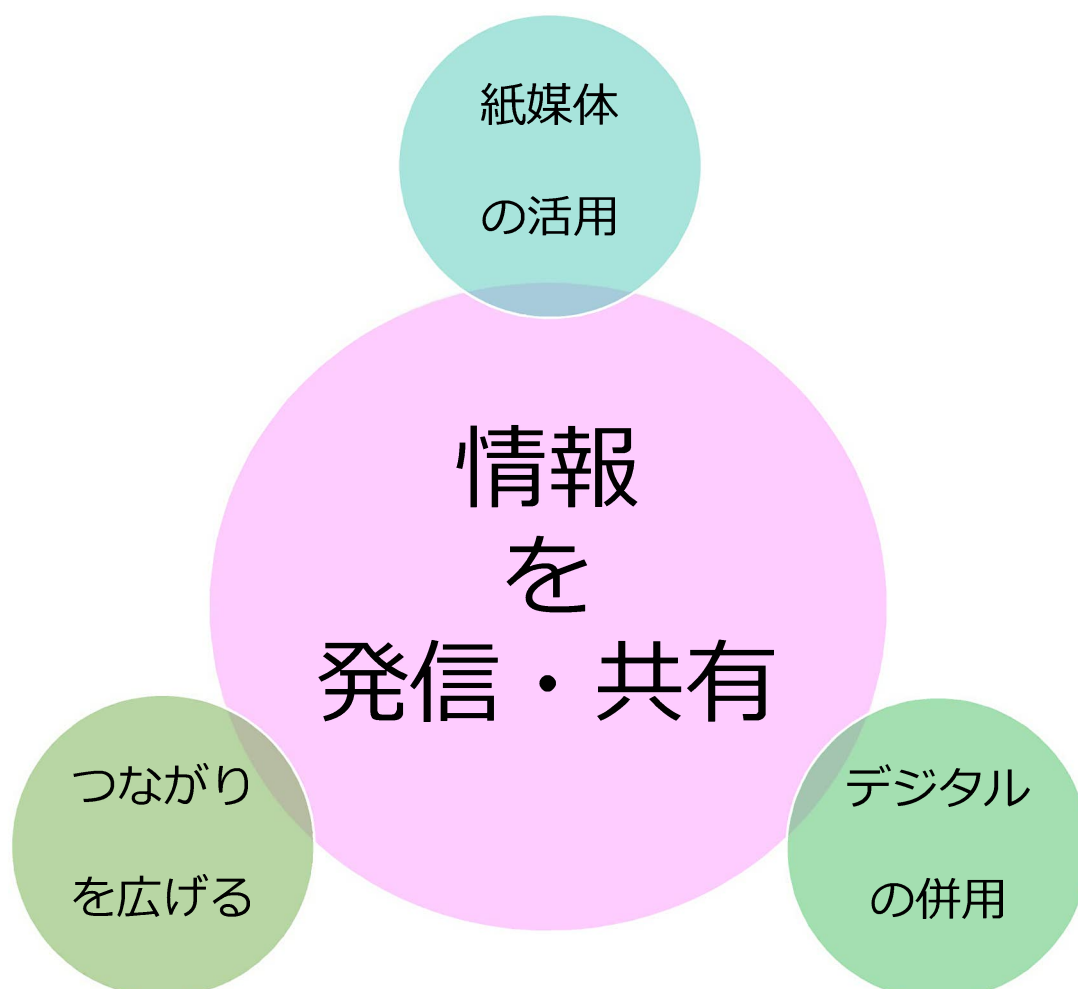
時代の変化に関する悩み

- ▷ スマートフォンなどデジタルツールを持たない・使えない層がいる。
- ▷ 若い世代に対する情報発信は必要だが、運用できる人材や体制がない。
- ▷ ホームページなどを立ち上げたくても更新や運用が負担になる。



ヒント

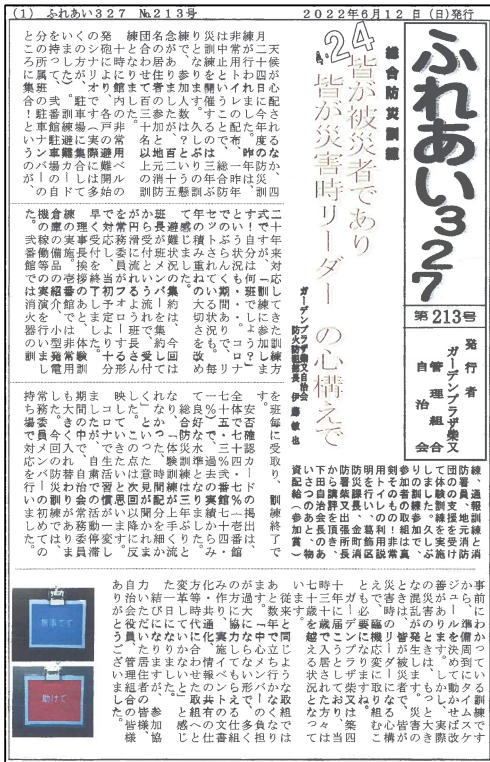
アナログとデジタルを使い分けて、自治町会の活動内容や意義などを発信・共有することで地域でのつながりを広げる。



紙媒体
の活用

活動に対する関心が低い人やデジタルが苦手な人にも情報を届けることができる、手元に残して繰り返し読むことができる紙のメリットを踏まえて情報を発信・共有してみては？

事例 ふれあい327の発行（柴又地区・ガーデプラザ柴又自治会）



マンション（327世帯）で組織した自治会で、管理組合と協力して年6回程自治会だよりを発行し、マンション全体で情報共有を図っている。



自治会だよりのほか、日頃の挨拶を大切にしている。



- ▶ コロナ禍でも発行を継続し、住民との関係を保つ。
- ▶ 総合防災訓練や運動会の様子を紙面で振り返って次回につなげる。
- ▶ マンション住民にとって需要がある畳屋さんの広告を載せて協賛を得ている。

問検委員の地元で取組

【青戸地区・グリーントウン青戸町会】



集合住宅の町会であり、月1回実施している役員会の内容を書いた町会ニュースを掲示板に貼るほか、戸別に周知している。何人かで分けずれば集合ポストに投函できるため、紙媒体が有効である。

【東金町地区・東金町四丁目自治会】



都営住宅の自治会で、7班に分けて会報を各戸配付している。掲示板を見ない人もいるので、エレベーターに掲示するなど、見てもらう工夫をしている。

事例 学生の視点でパンフレット作成（金町地区・東金町中央自治会）

地域活動を研究している大学の先生とゼミ生の支援を受けて「学生がお伝えする東金町中央自治会の魅力」をつくった。活動に関わったことがない学生が参加してみても気づいた魅力をまとめたもので、自治会では加入案内として活用している。

ポイント 活動に関わったことがない人の視点にたって魅力を伝える。



- ▶ 学生とのワークショップをとおして、自治会活動の振り返りや課題、地域の状況や今後の活動の方向性について役員で意見を出し合うことができた。
- ▶ 学生にとってもフィールドワークの場となった。

問検委員の地元で取組

【堀切地区・堀切中央町会】



町会域は高齢者が多いこともあり、従来どおりの回覧板、掲示板による情報の発信・共有で十分に運営できている。

【東立石地区・川端東第一町会】



SNSを見ることができない人も多いため、回覧板や掲示板を活用している。

【水元地区・水元中之橋町会】



町会員から「町会活動のことが全く分からない」と言われ、「中之橋便り」の作成を始めた。年7回程発行、総会の内容などを記事にして回覧板と掲示板でお知らせしている。

事例 外国人向けチラシの作成（亀有地区・亀有西三自治会）

外国人が多い地域で、ごみ出しや自転車の駐輪など暮らしの決まりごとについて共有を試みた。



チラシをとおして文化の違いを互いに知るきっかけとする。

- ▶ 英語版のチラシは、インターネットの翻訳サービスを使って手作りした。
- ▶ 衣食住などの暮らしに直結することは、チラシの手渡しに合わせて、コミュニケーションを図る。
- ▶ 手作りした英語版のチラシを渡すことで、顔見知りの関係のきっかけになる。

Recommendation of Neighborhood Community Association

Each living district in Japan has an organization called Neighborhood Community Association. This organization is involved in organizing various events, district cleaning, local festival, public information distribution, mutual cooperation in a time of disaster, etc. Through these associations the ward office distributes "Public Relations Magazine" as well as a variety of information. Neighborhood Community Association is an important organization if you want to live together with district residents. We highly recommend you to join your district's Neighborhood Community Association.



Please participate in the following events.
 ・Disaster Prevention Practice (with barbecue party)
 ・Summer Festival (at "Kameari Lirio Park" in July or August)
 ・Festival of "Kameari Katori Shrine" (carrying a portable shrine, in September)
 ・Recreation Events
 ・Rice Cake Pounding Event

文化国際課の外国人向け生活ガイドブック

区では、外国人のための生活情報ガイドブックを英語版、中国語版、ハングル版（日本語併記）の3種類発行しており、戸籍住民課や国際交流コーナーなどで配布している。また、区ホームページをとおして108個の言語で閲覧することもできる。

ごみ出しや分別など、自治町会から外国人に伝えたいことがあるときに活用できる。



生活ガイドブック▶

外国人向け生活ガイドブック(多言語対応版)

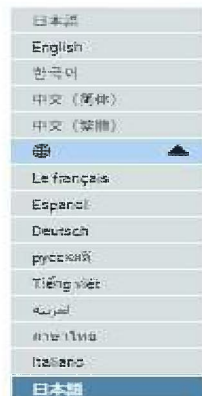


ページ番号1022206

印刷 大きな文字で印刷

こちらのページでは、108個の言語で外国人向け生活ガイドブックを閲覧することができます。掲載されている情報は、令和4年4月1日時点のものです。最新の情報は各ページに掲載されているお問い合わせ先にご確認ください。

- 1. 葵飾区役所・区民事務所
- 2. 外国人の手続き
- 3. 国民健康保険・介護保険・国民年金
- 4. 税金について
- 5. ボランティア日本語教室
- 6. 困ったときに相談するところ
- 7. 緊急のとき、どうしたらいいの？
- 8. ごみ・リサイクル・自転車
- 9. 出産と子育て
- 10. 子どもの教育
- 11. 健康について
- 12. 住の家を探す
- 13. 仕事について
- 14. 葵飾区での生活を楽しくもう！



<https://www.city.katsushika.lg.jp/information/1000087/1022737/1006626/index.html>

デジタル
の併用

「随時、内容を更新できる」「情報の受け手が送り手となることができる」「情報管理が簡単になる」など、デジタルのメリットを取り入れることでより良い活動になるのでは？

事例 ポスターにフェイスブックのQRを掲載（亀有地区・前津会）

おまつりや行事を実施するとき、ポスターにフェイスブックやLINEのQRを掲載している。開催日に向けて随時情報を発信することで、当日の賑わいづくりを図るほか、町会活動を知ってもらうきっかけとしている。



スマートフォンで簡単に読み込むことができるQRを活用して、町会活動を広く周知している。

- ▶ フェイスブックやLINEを使って広く情報を発信することで、町会活動に興味を持ってくれた人とオンラインでつながることを模索している。
- ▶ ポスターやチラシにQRを掲載することで、新しい内容を随時発信できるほか、多くの情報を伝えることができる。

事例 チラシに参加者申し込み用QRを掲載（青戸地区・白鳥東町会）



コロナ禍でのイベント実施にあたって、参加者数などを事前に把握するために、参加者申し込み専用のQRをチラシに掲載した。



情報の送り手と受け手、どちらも簡単・便利になる。

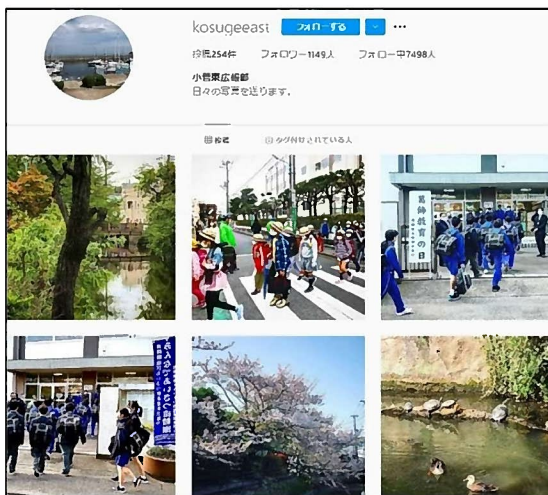
- ▶ 参加を希望する人は、QRを読み込んで必要事項を入力すれば簡単に申し込みができる。
- ▶ 町会にとっても、申し込み状況などをいつでもどこでも確認できる。書面に比べて情報の管理や整理がしやすい。

事例 フェイスブックなどによる情報発信（南綾瀬地区・小菅東自治会）

コロナによって表立った活動を自粛せざるを得ない状況においても、インスタグラムやフェイスブックで地域の情報などを定期的に発信している。



趣味の延長で、得意な人・簡単にできる人が担うことで、義務感や負担感を少なく情報を発信している。



- ▶ 写真撮影を趣味としている広報部役員が担っており、情報をこまめにアップロードしている。
- ▶ コロナ禍での資源回収や歳末夜警のほか、地域の日常のひとコマを紹介して魅力的で住みよいまちのPRにつなげている。

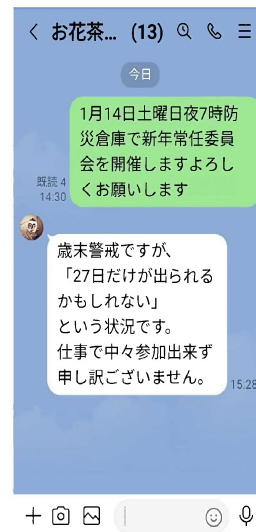
問検委員の地元でも広がるLINEなどの活用

【お花茶屋地区・お花茶屋町会】



会合の場としていた区有施設がコロナで利用できなくなったため、スマホを持っている役員とLINEでグループを組んで連絡を取り合った。周囲を見て、自らスマホに変えた人もいる。書類などもすぐに画面上で共有できて良い。

13人で情報を共有している
LINEの画面▶



【南綾瀬地区・堀切八丁目町会】



周年記念誌制作にあたって、編集メンバーの間でLINEの活用が進んだ。

【亀有地区・前津会】



執行部三役でLINEを使っていたが、文化部や総務部など各事業部においてもLINEの活用が広がっている。

【奥戸地区・奥戸町会】



地区町連に若い会長がいることもあって、6自治町会でLINEグループを組んだ。電話連絡は不在のときに苦労するが、LINEは簡単に意思疎通できる。

【東四つ木地区・渋江東町会】



デジタルに詳しい総務部長が、スマホを持っているが使いこなせていない方の設定をフォローした。デジタルが苦手な人でも届いたものを確認することはできる。役員会の日程変更などの連絡を各事業部に一斉連絡できて効率的だと感じた。

【金町地区・東金町中央自治会】



インターネットを活用した情報発信の講習会などに積極的に参加した結果、自治会のホームページ公開にこぎつけることができた。マンション住民や若い世代を自治会活動に取り込めることができればと、ホームページの内容を随時更新している。

東金町中央自治会ホームページ▶
<https://www.chokai.info/higashikanamachichuo/>



つながりを
広げる

高齢者の健康増進や子どもの健全育成、いざというときの備えなど、地域でつながり合うきっかけをつくることができるのでは？

事例 コミュニティカフェとの連携（青戸地区・白鳥東町会）

地域の子どもや高齢者との交流の場の必要性が高まる中、町会主催のハロウィンイベントで、NPO法人パルシックが運営するコミュニティカフェ「みんかふえ」をお立ち寄りスポットとした。



生活に困っている人だけでなく、誰もが気軽に集える場所が暮らしの身近にあることを知ってもらう機会になった。



- ▶ 「みんかふえ」は、こども食堂、フードパントリー（食材配布）を展開するほか、高齢者がコーヒー片手におしゃべりできる、放課後の小学生が宿題できるような地域の人が気軽に集える場を目指している。
- ▶ 日頃から「みんかふえ」とコミュニケーションを図り、「地域の安全・安心を守る」という同じ目的を共有していたことが、事業の連携につながった。

問検委員の地元での取組

【お花茶屋地区・お花茶屋町会】



コロナと付き合いながら事業を再開しようということで、お花茶屋地区町連で話し合っ
て、共栄学園と協力してお花茶屋音楽祭を開
催した。第1部は吹奏楽部などが演奏し、第
2部ではベリーダンスやオカリナなど自治町
会からも出演した。地域で人と人がつながり
合うことで実施できた。



事例 フレイル予防講習会の実施（新小岩地区・新小岩第三自治会）

コロナによる高齢者の健康二次被害（コロナフレイル）を防ぐために、「体力」「口腔」「栄養」をテーマとした地域住民向けの講習会を実施した。



自治会の役員で話し合い、高齢者の健康づくりを地域で広げていくための場をつくった。



わがまち楽習会

みんなで作ろう 健康しんこいわ ～フレイル対策

参加費 無料

フレイルとは、要介護状態となるリスクが高い状態のことを指し、健康な状態と要介護の状態の中間地点です。フレイルを予防するためには、「体力」「口腔」「栄養」対策が大切です。講座を通じて、フレイル予防のヒントを得ましょう！

日程	内容
第1回 12月6日 (火)	自分の身体と健康 講師：根本 伸洋氏 (イムス東京葛飾総合病院 リハビリテーション科 技師長)
第2回 1月26日 (木)	お口の健康 講師：高橋 裕幸氏 (歯科医師 公益社団法人葛飾区歯科医師会 介護保険担当常務理事)
第3回 2月21日 (火)	栄養と健康 講師：大場 泉氏 (管理栄養士 公益社団法人東京都栄養士会)

【時間】会田自治会 午前10時～正午 【対象】テーマに関心のある方 70人
 【会場】新小岩地区センター ホール 【持ち物】マスク・タオル・飲み物
 (新小岩 2-17-1) ・上履き ・運動できる服装

*事前申込不要
直接会場へお越しください！

【参加上の注意事項】
 ・マスク着用や手洗いの指導など、感染症対策にご協力をお願いします。
 ・新型コロナウイルスの感染状況により、内容を変更する場合があります。
 問合せ先：若槻整司 (03-3651-1084) ・生涯学習課 (03-5654-8512)

主催：新小岩第三自治会 葛飾区教育委員会

- ▶ 生涯学習課の「わがまち楽習会」を活用し、講習会の企画・運営についての相談、講師の紹介や講習会のPR方法などの支援を受けて実施した。
- ▶ 高齢者総合相談センターや病院などとのつながりを持つ機会となった。

参考資料 P.28 自治町会に対する側面支援

問検委員の地元での取組

【亀有地区・前津会】



活動の自粛が続く中で、地域とどのようにつながっていくかを考え、会費収入を原資として肌触りの良いマスクを会員に配付した。

【東立石地区・川端東第一町会】



コロナで表立った活動ができない間、避難所の倉庫や古い倉庫の買い換えなどを実施し、地域防災の維持・向上に取り組んだ。